



思い出と夢を通して喪失と向き合う…。頼れる親のいない環境で育った文直（ふみなお）とその妹、なきさ。広い世界を求めるように成長した文直はなきさを残し、ひとり故郷を後にする。三年後、偶然訪れた心靈スポットのトリノエルで、文直はなきさの幽霊に出会う。そこはなきさが事故死した現場だった。トリノエルの暗闇の中、文直はなきさを探し彷徨い始める。暗闇は罪と深い喪失の時間、文直を誘う。

脚本 監督・編集 古川原壮志  
青木柚 山崎上海  
北条香那 日向丈 高橋雄祐 三上紗弥 中島優花 水井秀樹  
宇野祥平 堀川みほ 三浦誠巳

プロデュース | 明里ミミ / 撮影 石田遼 / キヌイソウタロウ | 元川悠輔  
ライフロケーター | 早川敏 / 助監督 宮本忠実 / 制作担当 多賀典彬  
美術 秋篠悦子 / 録音 小川武 / 照明 神山啓介 / 衣裳 宮理紗  
ヘアメイク 伊藤 聡 / キヌイソウタロウ 富岡明 / 協力 佐藤アユム / ミツシヨウ  
制作 ロダクシヨウ / フラック / 配給 アークエタインメント  
© Takeshi Kogahara Film / nagisa-film.com

## 愛するということ。

「古川原壮志の長編デビュー作『なきさ』はどんな映画にも似ていない。この数年間、多くの才能ある日本の監督たちがデビューを飾っているが、中でも最もユニークな作品だ。」  
東京国際映画祭プロダクション・フィルムフェスティバル 市川崑

2021年第34回東京国際映画祭  
「Nippon Cinema Now」部門、  
2022年サン・セバスティアン国際映画祭（スペイン）  
「New Directors」部門上映作品。  
同年のトリノ映画祭（イタリア）では  
国際長編部門で上映、特別表彰受賞。

本作が長編デビューとなる古川原壮志監督はテレビCM監督として活躍するかわら、短編映画「なきさ」(2017)、「Etilid」(2019)の製作を通じ、釜山国際映画祭など国内外の映画祭で注目を集める。カンヌ・フェスティバル・フェスティバルの脚本家やフィルム・マックスの人材育成プログラムタレント、フェスティバルに選出され長年にわたり長編「なきさ」の企画・脚本を練り上げてきた。

主人公、文直を演じるのは、青木柚。近年、CM連続テレビ小説「カムカムエブリバディ」やドラマ「きれいのくに」に、映画はだかのゆめ、「うみへの女の子」米映画「ZINZIN」などに話題作への出演が続き、その才能と圧倒的な演技力で作品へのオファーが絶えない、今最も注目すべき若手俳優だ。妹、なきさ役には、本作が映画初出演となった山崎上海。強冠以蔵（撮影当時）から確かな存在感で難しい役どころを演じ切った。共演に、三浦誠巳や宇野祥平ら個性豊かな俳優陣が物語に花を添える。

新宿区東横口 伊勢丹メックス館隣 B1F

主 持 ティアトリ・シネマグループ

テアトル新宿

03 (3352) 1846

ttcg.jp

2023年5月12日(金)ロードショー

# なぎさる

# NAGISA

脚本・監督・編集 古川原壮志

青木 柚 / 山崎七海

喪失と喪の白昼夢。

第34回 東京国際映画祭  
Nippon Cinema Now部門

第70回 サン・セバスティアン  
国際映画祭  
ニュー・ディレクター部門

第40回 トリノ映画祭  
フィクション長編部門  
スペシャル・メンション(特別賞)